

於て三百八隻(四割三分二厘)年内廢用船數に於て、百三十六隻(二割二分五厘)の何れも減少を示した、更に漁船數を郡市別に觀れば鹿島郡の千七十五隻で首位を占め、之に亞ぐは多賀郡の八百六十八隻、行方郡の八百三十六隻、稻敷郡の八百

九隻、東茨城郡の七百七十六隻、新治郡の六百七隻、久慈郡の三百四十八隻、猿島郡の百八十七隻、北相馬郡の百四十四隻にして以下は百隻を超えざるものにして眞壁、結城、筑波水戸市の順位である。

優 良 町 村 視 察

(口 繪 寫 眞 參 照)

白鳥村長其他一行

鹿島郡白鳥村では四月二十八日戸島村長引率の下に菅谷主任書記及調査員十二名眞壁郡大賀村を視察したが途中縣統計課に立寄り郡司處の案内で廳内を見學の上、一路大賀村に到り詳細に視察して歸村した、同村調査員は昨年は久慈郡賀美村を視察して大いに考ふる處あり、本年は更に拍車を加へ郡西部地方に於ける狀況を視察し、統計優良村を目指して躍進しつゝあり統

計事務は全く面目を一新した

新治郡林村調査員

新治郡林村統計調査員十名は小松崎書記引率のもとに四月二十八日久慈郡賀美村視察の途次縣統計課を訪れ課内を見學して賀美に至り詳細に視察研究して即日歸村した、年來の計畫が本年實現した譯でいよゝ／＼結束して一段の向上發達を目指して精進し、これまた大いに面目を改めた

豊岡村統計調査員

結城郡豊岡村統計調査員も四月十八日那珂郡の模範村佐野村を視察し、根本主任の懇切な説明を聽いて大いに得る處あつたが、途中縣廳へ立寄り關、小泉兩處の案内で廳内を見學した

世喜村調査員

久慈郡世喜村では統計事務視察を企畫し三月十七日主任書記古徳武雄氏調査員十二名を引率自動車を驅つて早朝出發、同郡賀美村を訪問視察の上夕刻歸村した

馬匹獎勵を裏切つて

馬一千餘頭の減少

年と共に牛に追はれ氣味

縣 下 の 養 畜 調 査

但し生産馬は一割一分の増

昭和十年末に於ける本縣の養畜(牛、馬、豚、綿羊、山羊)戸數は牛二萬八百四十六戸、馬四萬一千九百八十八戸、豚三萬五千七百七十九戸、綿羊六千四百一十四戸、山羊一千三百六十八戸で、前年に比し牛は一千三百三十八戸(○割七分)豚は三百六戸(○割一分)綿羊は七戸(一割二分)山羊は二百九十四戸(二割七分)を孰れも増して居るが、獨り馬のみが九百六十五戸(○割二分)を減じて居る。

綿羊は十九頭(一割六分)山羊は三百九十三頭(二割六分)を増して居るが馬のみは一千百八頭(○割二分)を減じて居る、斯の如く牛の増加の反對に馬の減少して行くのは牛は馬よりも從順で、非常に使ひよいのと、比較的馬よりも安價なものと、其の飼料が馬より低廉で濟むからであらうか。

然してその飼養頭數は牛二萬二千四百七十六頭、馬四萬四千九百九十四頭、豚五萬六千四百一十一頭、綿羊百三十八頭、山羊一千九百一十一頭で前年に比するときは亦戸數と同様で牛は一千四百二十七頭(○割七分)豚は四百四十四頭(○割一分)

又昭和十年中に於ける生産數は牛八百五十九頭、馬一千二百二十九頭、豚三萬五千七百四十四頭、綿羊十一頭、山羊四百二十三頭で前年に比し馬は百九頭(一割一分)綿羊は七頭(十七割五分)山羊は百十二頭(三割六分)を増したが牛は二十一頭(○割二分)豚は八百三頭(○割二分)を減少した。郡市別は次の通りである

郡市別	飼養頭數					飼養頭數				
	牛	馬	豚	山羊	山羊	牛	馬	豚	山羊	山羊
水戸	三	六	七	一	一	八五	三	二四七	一	二
東茨城	二、八八八	二、八四四	三、五〇〇	二	二	三、三七七	二、八三三	五、五五五	三	六九
西茨城	四、三三三	二、六三三	一、〇三三	四	六	五、五五六	三、〇三三	一、五五六	八	九九
那珂	一、三三三	二、六三三	四、〇三三	九	二六	一、三三三	三、〇三三	六、五五六	一八	一五七
久慈	四、四	五、六三三	一、三三三	二	七	四、七	六、五五六	一、七〇〇	三六	一八四
多賀	二、七	三、三三三	一、〇三三	十	二七	三、三三三	四、七三三	二、五五六	一	三九
鹿島	二、三九九	二、八八八	四、二八八	一	二九	二、四四四	二、八八八	五、八七七	一	四二
行方	一、八五五	三、〇三三	一、二七	四	八三	一、九二二	二、〇五五	一、六九九	九	一三六
稲敷	三、三三三	二、〇〇〇	二、四三〇	二	五〇	三、三九九	二、〇三七	四、二五五	八	七五
新治	一、六三三	四、七六六	二、七三三	四	一四七	一、七六六	四、七五五	四、四二二	三	一〇三
筑波	一、三三三	二、三三三	二、二七七	一	一〇三	一、六九〇	二、七五五	三、六三三	一	一五二
眞壁	七九〇	四、〇三三	三、五五五	一	三七九	八八〇	四、〇三三	六、一五五	一	四三
結城	一、六六六	二、四三三	三、三三三	四	三三	一、八〇三	二、三九九	五、四八二	三	二二六
猿島	一、四三三	二、四三三	三、四八八	一	三三	一、六五五	二、五三三	五、〇〇三	一	三六
北相馬	一、〇三三	一、三三三	一、〇一〇	二	三三	一、〇七七	一、三九九	一、七六三	四	二七
昭和十年計	二〇、八四六	四、九六八	三、七九九	六	一、三六	三、四六六	四、四九九	五、四四二	一三六	一、九二
昭和九年計	一九、五〇八	四、三三三	三、五七七	五	一、〇五	二、二〇九	四、三三三	五、五九七	二九	一、五八

統計關係者大會並に統計協會長懇談會

川崎統計課長出席

三重縣及三重縣統計協會主催で四月二十一、二十二の兩日に亘り國産振興大博覽會を機として四日市、市公會堂(四日市博覽會場外四日市港頭)及宇治山田市に於て日本中部十八府縣統計關係者大會並全國道府縣統計協會長懇談會を開催、本縣からは川崎統計課長及齋藤囑託が出席した。

同大會の參會者は其の數三千に及び、劈頭村田三重縣統計課長開會を宣し、一同皇大神宮及皇居を遙拜したる後三重縣總務部長の開會の辭、同縣知事の式辭並内務、農林、商工の各大臣、資源局長官、内閣統計局長、三重縣會議長、同町村長會長等の祝辭及各道府縣よりの祝電を披露し、次いで三重縣總務部長を座長に推し別項の如き宣言、決議を異議なく拍手裡に可決し、引續き各府縣提出事項に付協議を遂げ、更に内閣統計局森統計官の講演ありて此の意義ある大會も極めて盛會裡に終り、午後は引續きて統計課長並統計協會長懇談會に移り各府縣提出の議案に就て慎重審議を行ひたる後大博覽會を見學し、國産振興上各種計畫の基礎資料を提供すべき我等統計關係者に取りては又と得難き幾多の收穫を得て大會第

一日を了し、第二日は皇大神宮の神域たる五十鈴川の邊に於て大會參會者一同神宮神部署長より神宮に關する講演を聽いてから御神樂殿に相集ひ大々神樂を奉奏して神明の御加護を得、以て現下の非常時に直面して益々我統計事務の改善刷新を計り奉公の誠を効すべく祈願をこめ、更に内宮外宮を參拜の上名残りを惜みつゝ散會した。

宣言

内外非常ノ難局ニ膺リ國歩日ニ重大ヲ加ヘ諸般ノ施設愈々振作更張ヲ要ス
吾人統計ノ事務ニ携ハル者深ク思フ此ニ致シ協心戮力統計ノ改善整備ニ努メ以テ躍進日本ノ盛運ニ貢獻センコトヲ期ス
右宣言ス

決議

- 一、吾人ハ専心統計ニ關スル智識技能ヲ養ヒ周密的確ナル統計ヲ整備シ速ニ之ヲ公表シテ時局對策ノ指針ヲ提示シ以テ其ノ本分ヲ完フセンコトヲ期ス
 - 二、吾人ハ極力統計ニ對スル世人ノ理解ト認識トヲ深メ廣ク其ノ協翼ヲ促シ以テ使命ノ遂行ニ邁進センコトヲ期ス
- 府縣提出事項
- 一、農業調査實施促進ニ關スル件
 - 一、師範學校、中等學校等ニ於テ統計學ヲ教授セシムルノ件
 - 一、農業調査繼續施行方其筋(要望)ノ件